

地域共生推進課、ご存じですか？

～「生きづらさ」と「地域のつながり」～

問 地域共生推進課 ☎56-0551

4月に市長直轄組織として誕生した「地域共生推進課」。どんなことをする課なのか、ある日の地域共生推進課の会話をのぞいてみました。

登場人物



くにのぶ
國信さん

7月に厚生労働省から長久手市に派遣されてきた職員。

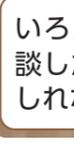


地域共生推進課
地域共生担当職員 4人

各小学校区を受け持ち、それぞれの地域の課題を地域で解決するよう日々奮闘中。



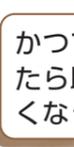
長久手市は、民間企業が行う各種ランキングでは上位で、快適らしいけど、「8050問題」※1や「ダブルケア」※2 みたいな、一つの制度だけで解決できない問題があるよね。



いろんな問題を同時に抱える人は、どこに相談したら良いかわからないと悩んでいるかもしれないよね。



うん、みなさんから寄せられる悩みごとは昔と違っていろんな問題が複雑に重なっているよね。



かつては近所づきあいも当たり前で、何かあったら助け合ってきたけど、最近はつながりが弱くなってきている気がするね。



複雑化する悩みごとに加えて、地域とのつながりの希薄化…悩みごとを地域で丸ごと解決していくためには、どうすればいいのかな。

※1 「8050問題」… ひきこもり、非正規雇用などで、収入が少なく、80代の親が自分の子どもを経済的に支えている状態のこと。

※2 「ダブルケア」…… 育児と介護のケアが世帯内で同時に存在する状態のこと。

あなたの周りにも「生きづらさ」を抱えている人がいます。
そして、現状の制度や仕組みにも「支援のしづらさ」があります。
だから、**地域共生推進課は誕生しました！**

「生きづらさ」を抱える人を地域で支え合い、地域共生社会を実現しよう

地域共生推進課では、みなさんの抱える悩みごとは、どんなことでもすべて受け止め、地域のみなさんとともに解決策を考えていくため、次の3つを**一体的**に行っていきます。

みんなが幸せを実感できる地域づくり



「生きづらさ」を感じている人や地域で起きている困りごとをキャッチし、**地域のみなさんの「つながり」**で解決していきます。

小学校区の担当職員・コミュニティソーシャルワーカー (CSW) は住民同士が支え合う地域づくりを行っています。

そのために、**顔の見える関係づくり**や、**多世代が交流し、みなさんが活躍できる場づくり**をしていきます。



- 例 ・地域共生ステーションでの交流
- ・避難行動要支援者への見守りネットワークづくり
- ・ワンコインサービス

重層的支援体制整備事業



地域共生担当職員

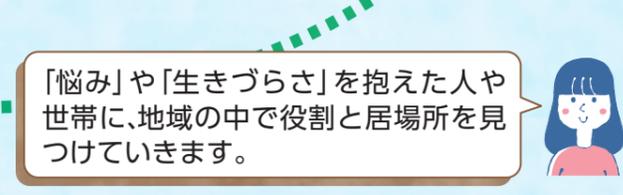


コミュニティソーシャルワーカー (CSW)

～地域とともに考える「調整役」～



どんな相談も受け止め、**さまざまな支援機関と力を貸していただける地域のみなさんでタッグを組んで支援**します。



「悩み」や「生きづらさ」を抱えた人や世帯に、地域の中で役割と居場所を見つけていきます。

- 例 ひきこもり相談窓口兼居場所「N-ジョイ」の開設

断らない相談支援

多様な参加支援

「生きづらさ」を感じる人を、「地域のつながり」等で支え、「人と人」「制度と制度」を紡ぐのが地域共生推進課です。

まずはお近くの地域共生ステーションであなたの悩みごとや、地域でやりたいこと等何でもお話しください。



國信さんからのメッセージ

身近な人を気遣う毎日のアクションが、今を生きる私たちがより安心安全に、そして次世代の子どもたちに誇りをもって引き継ぐことのできる地域につながると思います。私も長久手市民の一員として、たくさん汗を流します！明るく笑顔で進めていきましょう。

